

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月27日実施)	総合評価(3月8日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、各教育部門における系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①児童・生徒のキャリア発達に即した指導内容を精選し、自立と社会参加をめざす教育課程の組織的な体系化を図る。 ②授業改善に向け、校内の教材・教具、指導案に関する情報が共有、活用できるように整備する。	①「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し、校内研究を通して、キャリア発達に即した小・中・高のつながりのある指導内容の見直し・精選・焦点化を図る。 ②校内の教材・教具・指導案に関する情報を整理し、共有、活用できるシステムの見直しを行う。	①「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用した指導内容の見直し・精選・焦点化ができたか。 ②校内の教材・教具・指導案に関する情報を共有、活用しやすくなったか。	①学部を基本とする10の研究グループで、系統性を示す表を活用し、付けたい力に焦点を絞った授業改善に取り組んだ結果、発達段階に応じた指導内容、支援方法等について見直し、精選することができ、研究教科を中心に、授業改善に大きな成果を得た。 ②校内の教材・教具の共有は、教材展示などで共有する機会を設けた結果、学部間での有効利用も見られるようになった。校内サーバーの指導案フォルダを整理し周知しているが、情報の共有まで至っていない。	①研究で取り上げた授業以外にも今年度の成果をいかし、組織的な授業改善を継続する。さらに系統性のある教育課程の編成をめざす。今後の学習指導要領改訂に伴う情報を収集しつつ教育課程への対応を進める。 ②教材・教具等、情報が共有されているが、さらに積極的な活用につながるよう、日常的な物的・人的交流が必要と考える。指導案は、紙媒体およびデータによるより一層の共有と活用を進め、手に取れる、目に触れる形を検討する。	①(保護者)アンケート結果では、自立と社会参加に向けた取り組みをしていると83%が肯定。 ・意見・要望:子どもの主体的な活動を引き出す指導、発達段階に応じたレベルの設定、地域社会で生活する力の継続的な育成に期待する。(学校評議員)キャリア教育への取り組み成果が見られている。今後も社会参加に向け継続する必要がある。 (その他)中・高校生アンケートでは、学校生活が楽しいが94%、好きな授業があると86%が回答し、いずれも昨年度を上回っている。 ②(保護者)アンケート結果では、教材・教具等、教員間で情報を共有・活用して授業実践に取り組んでいると86%が肯定。 (学校評議員) 特になし	①校内研究を通して授業改善に取り組み、自立と社会参加を見据えた指導内容を焦点化することで、指導や支援の在り方が充実した。さらにその成果を他の教科等の指導に活用し、継続的な授業改善に取り組む、さらに指導・支援の充実を図る必要がある。 ②教材・教具の共有については、多様な機会を活用し推進することができたが、指導案の共有と活用の改善が必要である。	①組織的な授業改善を継続し、さらに系統性のある教育課程の編成をめざす。 ・次年度も課題研究を実施し指導・支援の充実をめざす。 ②教材教具の情報の共有と有効な活用を促すシステムを構築する。 ・指導案の情報共有と活用に向け、サーバーの活用と、手に取れる目に触れる形を検討し実践する。
2	児童生徒 指導支援	児童・生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた指導・支援を充実させる。	①専門職等との連携を強化しチームとしての指導・支援の充実を図る。 ②個別教育計画に組織的に関わるシステムを構築する。	①アセスメントやケース会をはじめ、日常的に専門職等と関わり、チームとして指導・支援にあたる。 ②専門職等との連携、日頃の指導への活用等を含め、個別教育計画の様式や運用の見直し・改善を行う。	①アセスメントや相談で、専門職等と関わった指導・支援の内容について個別教育計画に記載されているか。 ②個別教育計画の様式や運用の見直し・改善ができたか。	①支援ニーズに応じて、専門職等を含めたチームで情報を共有し、校内外の相談等を通して、今後の支援の方向性、役割分担を確認することができ、専門職等と連携した際には、関わった内容を個々の指導や個別教育計画に反映し実践につながった。 ②個別教育計画の様式を見直し、全校の共通様式の基本形を作成し、次年度から新書式で実施することとした。A3両面1枚にまとめたことで、年間の指導と評価の状況が見やすくなった。	①専門職・教育相談担当が所属する連携部と協力し、校内支援の充実のために、必要があれば相談につながるよう地域連携係に学部担当を設けるなど、実効性を高め効率的な専門職との連携方法を検討し、可能なものから試行する。 ②新書式となるため、書式上の課題をさらに整理し、よりよい形を検討し修正する。新学習指導要領のもとでの評価について、情報を収集し必要なことは、導入に備え検討を行う。	①(保護者)アンケート結果では、養護教諭や専門職等とも連携を取り一人ひとりに応じた支援に取り組んでいると77%が肯定。 (学校評議員)専門職等との連携ができてきているが、職員の人権意識(大切な子どもを預かっているという意識)の向上が今後も必要である。 ②(保護者)アンケート結果では、個別教育計画は、わかりやすい内容で95%が肯定。 ・意見・要望:毎年先生が替わることで、学習指導や子供への対応が変わらないように配慮を願う。 (学校評議員)毎年担任が替わっても保護者が安心できるよう教員間での学び合いやサポートが必要である。	①支援ニーズに応じて専門職等を含めたチームで情報を共有し、関わった内容を個々の指導や個別教育計画に反映し実践にいかしたが、保護者アンケートでは77%の肯定であり、さらに校内支援の充実を図る必要がある。 ②個別教育計画が分かりやすいと保護者の95%が回答しているが、さらに分かりやすく、全校の共通様式の基本形を作成した。今後は、継続した支援の充実に向け、適切な運用を進める必要がある。	①専門職・教育相談担当とすぐに相談につながるよう地域連携係に学部担当を設け、校内支援の充実を図る。 ②個別教育計画の新書式上の課題をさらに整理し修正するとともに、個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援を継続する。また次期学習指導要領を見据え、情報を収集し、今後の指導・支援につなげる。
3	進路指導 支援	将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①卒業後の生活を見据え、進路学習・作業学習など、発達段階に応じた学習内容を充実する。 ②福祉制度や地域の情報を計画的に保護者に提供し、理解啓発を図る。	①卒業後の生活を見据え、児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を行う。 ②保護者に向け、計画的な進路説明会・福祉サービスなどの情報の提供を行う。	①児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導ができたか。 ②計画的な情報の提供ができたか。	①コミュニケーション能力の向上、社会と関わる力の向上等、卒業後の生活に向けた指導に取り組んだ。特に高等部は進路支援係と連携した授業の実施等、卒業後を見据えた指導への意識が向上したが、さらに改善を図る必要がある。年度途中からであったが、県が実施する清掃技能検定を高等部生徒が受け、参加者全員が3級以上に合格した。 ②保護者に対しての情報提供の機会には進路説明会をはじめ、事業所の現状、福祉制度等、多岐にわたって	①高AⅡ・Ⅲグループの職業の授業に進路指導担当が関わる指導体制を検討するとともに、職業の学習のみならず高等部の指導全体の系統性を検討し、卒業後の生活イメージをもてるように、更に学習内容を充実させる。清掃技能検定受検は来年度当初より計画的に実施する。 ②今後もニーズを把握しながら、内容を精選して説明会を行う。連携部便りは月1回程度の発行を目指す。また、教員に向けての発行も行う。	①(保護者)アンケート結果では、校外学習等は効果的に活用できていると80%が肯定。 ・意見・要望:校外学習先の拡大など検討を願う。 (学校評議員)コミュニケーション能力の向上、社会と関わる力の向上等の充実は今後も継続する必要がある。 ・社会参加に向け、清潔面の生活指導などを実施する必要がある。 (その他)中・高校生アンケートの職業や授業の有効性の設問では、91%が役立つと回答。 ②(保護者)アンケート結果では、保護者対象の実習先・進路先の見学会等は参考になっていると83%が肯定。 ・意見・要望:わかりやすい情報の提	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用した研究成果もあり、小学部からのキャリア教育の実践を通して、コミュニケーション能力の向上、社会と関わる力の向上等、卒業後の生活に向けた指導に取り組めた。社会参加に向け、今後も継続して取り組む必要がある。 ②保護者に向けた情報提供は、多岐にわたって実施できた。また、今年度より連携部便りを保護者向けに発行し、地域福祉の状況や福祉制度について発信した。	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用した指導を継続する。 ・進路指導担当が高等部授業の一部を担当する。 ・清掃技能検定を次年度は当初より計画的に行う。 ②保護者ニーズを把握し、内容を精選して計画的に説明会を行う。 ・連携部便りは、次年度以降月1回程度の

						行うことができた。連携部便りを 20 号まで発行し、多くの情報を提供することができた。			供を願う。 (学校評議員)連携部よりは、情報発信として有効である。	次年度も計画な情報提供を実施する。	発行を目指し、教員向けも発行する。
4	地域等との協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	①地域の学校や関係諸機関と連携を図り、センター的機能の充実を図る。 ②地域に向けた研修の開催や、地域と連携した教育活動に取り組む。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援を推進する。 交流学習を計画的・組織的に行い、相互理解を図る。 ②地域に向けた研修会等を実施する。 学校の取り組みを学校ホームページに掲載し、教育活動の情報を発信する。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援が計画的に進められたか。 交流学習が計画的に進められたか。 ②地域に向けた研修会が実施できたか。 最新の情報を掲載できたか。	①足柄高校とは足柄高校のニーズに応える形で年間を通して計画的に連携し、本校保護者による講演では、生徒が真剣に聞く姿が印象的であった。大井高校とは情報交換が一回のみであった。 交流学習は、学校間交流・居住地交流等計画どおりに行い、継続する方向の交流がほとんどであった。西湘高校吹奏楽部演奏交流会や小学校等、各学部の学校間交流を推進し、学習活動や行事にボランティアを利用して地域との連携をより深め、障害児の理解につながっている。 ②インクルーシブ教育に関する研修会、障害者文化事業等の行事や研修会については、一つひとつ充実させて実施できた。作品展示会場を追加し地域に発信した。また、小田原市社協と連携してボランティア講座を計画し、講座内容を充実させることで、4 名の新規登録につながった。 学校ホームページの更新を月に2回実施し、学校の取組を発信した。	①足柄高校とは引き続き連携し生徒の困り感や対応についての具体的な巡回相談にも応えていく。大井高校とは、地域の中学校卒業後の進路という点で情報交換を進める。両校のニーズに合わせて連携・支援を計画していきたい。 地域での交流学習を今後も計画的・継続的に進める必要がある。 ②地域に向けて特別支援教育のさらなる理解につながるよう、教材教具の展示会や研修会、学校へ行こう週間、作品展等それぞれの行事ごとに工夫する。今後も地域の関係機関との連携を密にしながら、本校のよりよい役割を探っていく。 ボランティア講座参加希望の受け入れや体験講座の内容などに課題があり、小田原市社協と連携して改善を図り次年度にいかす。 学校ホームページの毎年決まって更新が必要なページについては、一覧表を作成し更新の呼びかけを行う等、スムーズな更新に向けて改善する。	①(保護者)アンケート結果では、「地域の保育園や学校・施設等への支援は十分ですか」に 24%が分からないと回答し、肯定回答は 59%であった。交流学習は計画的に実施できていると 68%が肯定、わからないと回答した者が 19%あった。 ・意見・要望:今後も地域との交流の活性化に期待する。 (学校評議員)地域の学校との交流が多く実施されている。今後も共生社会の実現に向け、交流教育の充実・継続が必要である。 ・巡回相談などは継続的な評価が必要である。 ・保護者アンケートの回収率の向上と、保護者が分かりやすい発信が必要である。 ②(保護者)アンケート結果では、地域研修会や連携活動は、児童・生徒の理解啓発につながっているかわからないと 29%が回答、肯定回答は 57%であった。一方、学校は、学校の教育活動を、ホームページ等で、保護者や地域の方にわかりやすく伝えていると 82%が肯定。 ・意見・要望:小田原養護学校の教育や活動を保護者・地域にさらに情報発信するよう工夫を願う。 (学校評議員)高校生や大学生等にも、交流や研修を通して、障害のある子どものことを知っていただく機会を設けるとよい。	①インクルーシブ教育実践推進校、クリエイティブスクールとの連携・支援は、相手校のニーズに応じて取り組んだ。次年度も両校のニーズに合わせて連携・支援を計画していきたい。 ・交流学習は、学校間交流・居住地交流等、小学部・中学部・高等部ともに計画どおり実施でき、交流も深まりつつある。今後も継続的な実施が必要である。 ②連携部が主催している研修会や展示会は地域センター的機能として果たすことができた。今後も障害のある児童・生徒の理解啓発を図る必要がある。 ・教育相談等校外への支援も 500 件近く実施し地域から評価を得ているが、保護者アンケートに見られるよう、交流学習等も含めその成果が保護者に届いていない現実があるため、成果を発信しさらなる理解を図っていく必要がある。 ・学校ホームページの更新は月2回実施し、情報の発信に取り組んだが、まだまだ保護者・地域への発信が弱い状況も見られるため、さらに計画的な実施が必要である。	①次年度は、インクルーシブ教育実践推進校、クリエイティブスクール両校とも対象生徒が在籍し、本格的な実施となるため、実践を通したニーズに応ずるよう継続的な支援に取り組む。 ・交流学習については、地域でのさらなる連携を探り、居住地交流や学校間交流の計画的な実施と継続できる交流を進めていく。 ②連携部主催の研修会等次年度も継続して実施する。 ・地域との連携や協働・支援等が保護者にも伝わるよう、連携部だよりやホームページを活用して情報を発信し、理解を図る。 ・学校ホームページは今年度同様に月2回更新する。スムーズに更新ができるよう、一覧表を作成し、計画的な運営を行う。	
5	学校管理 学校運営	児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 不祥事防止に努め、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。	①児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 ②各種マニュアル等の活用と検証を行い、必要があるものについては改定する。 不祥事防止に努める。	①感染症、食中毒、異物混入、アレルギーによる事故等を未然に防ぐための「予防的な取り組み」を推進する。 ②緊急対応、捜索対応等の対応が速やかにできるよう、マニュアルの改善・周知と各種訓練を実施する。 毎月不祥事防止チェックシートによる個人点検を行う。	①保健室や学校栄養職員等との情報交換を密に行い、学部と連携しながら各指導等を徹底できたか。 ②緊急対応マニュアル、捜索マニュアルなどを有効活用して、非常時においても児童・生徒の安全を確保できる体制を作れたか。 毎月チェックシートでの点検を行い、不祥事を防止できたか。	①日々の健康観察を行う中で、児童生徒の様子を担任と養護教諭・看護師等とで共有し感染症、アレルギー対応など課題が明らかになった際には、大きな事故が生じないようすぐに対応した。また、医療ケア等の安全な実施に向け、看護師・養護教諭・保護者等と情報を密に交換し適切に対応でき、安全な指導につながった。 ②捜索マニュアルでは、新転任者を対象にマニュアル内容を周知する機会を設け、捜索担当者が確実に捜索区域の下見に行けるよう年度初めに下見時間を設定した。反省を十分に検討し、適宜マニュアルの見直しや動きの確認を行い、体制の改善につながった。 毎月、職員一人ひとりが不祥事防止チェックシートでの点検を行い、私費会計業務、文書取扱い、服务等、本校での不祥事を防止することができた。	①アレルギーや発作等で速やかな対応が必要なとき、学部の教員や養護教諭等が役割分担をして動けるように再確認する。年度の始めに対処訓練ができるように学部と確認し次年度へ引き継ぐ。 今後も、安全な医療ケアの実施に向けて、保護者、学校、主治医、担当医と連絡を密に取り、情報を共有し専門家の助言を聞きながら安全に学校生活を送ることができるように検討していく。 ②捜索や防災対応など、今後、児童・生徒の実態や校内の当日の指導体制により柔軟に運用していくことが課題である。そのための訓練を計画的に実施する。今後も細かな点検と早期対応を心がけ、誤りやすい点は、マニュアルに注意点として記載したり、呼びかけたりして事故防止の意識を高める。	①(保護者)アンケート結果では、感染症やアレルギー等の未然防止に取り組んでいると 85%が肯定。 ・意見・要望:感染症等の情報提供の継続を願う。 (学校評議員)安全な指導・支援に取り組んでいる。 ②(保護者)アンケート結果では、学校は防災教育に取り組んでいると 83%が肯定。また、学校は、会計報告等、適切に行っていると 89%が肯定。職員は児童生徒や保護者に対してコミュニケーションを大切にしながら態度で接していると 92%が肯定。 ・意見・要望:引き取り訓練、おだようメールの活用等、災害時の対応の確認と情報共有の徹底を望む。 ・意見・要望:職員一人一人が汗と創意工夫をプロの教育者として少しでも変化を求めてより良い教育現場を目標に取り組んでほしい。 (学校評議員)一般的に、保護者が不安に感じていることは多々あることを理解し、教員は危機感をもって対応してもらっても、保護者が学校に来る機会をさらに作ってほしい。	①安全・安心な学校運営に向け、指導部・管理部を中心とした関係者が連携を図り、課題が明らかになった際には、大きな事故が生じないようにすぐ対応できている。今後も継続が必要である。 ・医療ケア等の実施や医療相談等専門的な情報に基づき、関係者と連携し安全に実施できている。今後も人工呼吸器を使用している児童生徒が複数いるので、専門家の助言を聞きながら安全に学校生活を送ることができるように進めていく。 ②緊急対応、捜索対応等の対応が速やかにできるよう、引き取り訓練をはじめ、適宜マニュアルの見直しや動きの確認を行い、速やかに改善を図る。 ・財務調査において大きな指摘を受けることなく、適正な会計処理がなされている。 ・毎月実施した不祥事防止チェックシートやミニ研修会による効果は大きいと考える。	①感染症が発症した際の保護者への通知の徹底、アレルギーの情報収集と対応マニュアルの策定等これまでどおり継続的に実施し、安全な運営を実施する。 ・今後も、安全な医療ケアの実施に向けて、保護者、学校、主治医、担当医と連絡を密に取り合い、情報共有を図る。 ②次年度の引き取り訓練は教員のみによる想定訓練とする。 ・今後も各種マニュアルの見直し改善を図る。 ・おだようメールの活用を拡大し、情報の発信内容を増やす。併せて登録者数の増加を進める。 ・不祥事防止チェックリスト・ミニ研修会を継続実施し、不祥事防止に努める。	